

令和5年度第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会  
会議録要旨

【日時】 令和5年10月2日（月） 14:00～16:30

【開催場所】 富士見市教育委員会 集会室

【出欠状況】

小林	塚田	忽滑谷	森田	山岸
○	○	○	×	○

【事務局】

学校教育課長 教育相談室長 指導主事2名

【次第】

1 開 会
2 教育委員会あいさつ
3 委員長あいさつ
4 報告事項 (1) 令和5年度第1回生徒指導に関する調査結果について (2) 令和5年度いじめのない学校づくり子ども会議実施報告
5 議 題 (1) 「いじめの重大事態」への対処について
6 事務連絡 ・第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会 令和6年2月19日（月） 14:00 富士見市教育委員会 会議室
7 閉 会（副委員長）

**【報告】**

(1) 令和5年度第1回生徒指導に関する調査結果について

**【事務局】** 暴力行為発生件数については、小学校で増加傾向、中学校で減少傾向にある。

いじめの認知件数については、小学校で若干の減少傾向、中学校で若干の増加傾向にある。小学校・中学校においても1年生の発生件数が多い。

不登校については、小学校・中学校ともに増加傾向にあり、学年が上がるごとに増えている。

2学期に入り、家出・いじめの報告も入ってきている。

**【委員】** 家出事案が心配である。長期の家出やマッチングアプリ等の危険な関係性がなくてよかった。長期休業中は、家族との関係性にトラブルが起こりやすいので注意が必要である。

**【委員】** 不登校については、増加が著しいが、要因を掴むことが大切。前回の問題行動調査では、半分が友人関係、3割が勉強、残りが先生との関係等となっているが、今回の不登校増加は、コロナが影響している。

**【委員】** 暴力行為については、小学校が中学校を数字で上回る。教育課程が戻った現在、人間関係作り等を学ぶことができなかったことが要因でトラブルが増えるのは必然的なこと。中学校は、不登校としても現れている。

**【委員】** ICTの活用が不登校解消の手がかりとなる。対面とオンラインのハイブリッドもよいが、非常に手間がかかる。不登校児童へのICT機器活用は進んでいるのか。

**【事務局】** 可能な限り行っているが、家庭からの要望と教員のキャパシティを考えながら実施している。肖像権の問題やタブレットの台数、オンライン実施の時間割を連絡する等の負担が大きい。

**【委員】** 問題行動の未然防止のため、担任が、一日の終わりによかったことを印象づけて子どもを帰すように配慮していくとよい。

(2) 令和5年度いじめのない学校づくり子ども会議実施報告

**【事務局】** 今年度より、7月実施。「いじめをしている人にできることは何だろう」という視点で、中学生を中心に活発にグループワークをすることができた。会議を受けて各学校で現在取り組みを進めている。

【委員】 話し合う姿、発表する力を見て、学習の成果と捉えた。オンラインで全校がつながっている良さもあったが対面の良さもあった。

【委員】 被害者と加害者の気持ちを○の中に書き出したり、○のまわりにかきたい言葉を書き出したりして、参加者同士でいじめの認識を高めていく方法もある。

【委員】 中学生が最後、台本ではなく心の声として、「加害者にも被害者にも思いやりをもって話し合う」という想いを述べていたのが印象的である。

### 【議事】

#### (1) 「いじめの重大事態」への対処について

【事務局】 いつ、どう発展していくかわからないいじめの重大事態に対して、しっかり対応していきたい。

【委員】 いじめの重大事態の基準に難しさを感じる。

【委員】 精神性の疾患を発症した場合は、安易に捉えてしまうと初期対応を間違えてしまう。PTSD やパニック障害、全般的な不安障害等の様々なケースがあるので、どのように精神性の疾患を発症したと捉えるかある程度の基準をもっていないといけない。

【事務局】 「重度の精神性の疾患を発症した場合」で捉える。

【事務局】 また、子どもや保護者から重大事態に準ずると申し立てがあった場合の難しさがある。不登校の判断もいじめなのか本人の特性なのか判断の難しさがある。

【委員】 難しさはあるが、保護者の認識と教育委員会の判断をすりあわせることで進めていくことになるので、解釈の幅を持たせることが必要である。